

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成29年4月27日(2017.4.27)

【公開番号】特開2016-198116(P2016-198116A)

【公開日】平成28年12月1日(2016.12.1)

【年通号数】公開・登録公報2016-066

【出願番号】特願2016-165692(P2016-165692)

【国際特許分類】

C 12 Q 1/68 (2006.01)

G 01 N 33/53 (2006.01)

G 01 N 33/564 (2006.01)

C 12 N 15/09 (2006.01)

【F I】

C 12 Q 1/68 Z N A A

G 01 N 33/53 N

G 01 N 33/564 Z

C 12 N 15/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成29年3月24日(2017.3.24)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

少なくとも1つのリスク遺伝的バリアントの存在または非存在、ならびに/あるいは、少なくとも1つのリスク血清学的マーカーの存在または非存在を、炎症性腸疾患（IBD）を有する個体における低骨密度（LBD）に対する易罹患性の指標とする方法であって

（a）該個体から得た試料をアッセイして、少なくとも1つのリスク遺伝的バリアントの存在または非存在を決定すること；ならびに/あるいは

（b）該試料をアッセイして、少なくとも1つのリスク血清学的マーカーの存在または非存在を決定すること；

を含み、該少なくとも1つのリスク遺伝的バリアントの存在、または該少なくとも1つのリスク血清学的マーカーの存在、あるいは該少なくとも1つのリスク遺伝的バリアントの存在と該少なくとも1つのリスク血清学的マーカーの存在が、該個体におけるLBDに対する易罹患性を示す、方法。

【請求項2】

前記LBDが、骨粗鬆症および/または骨減少症と関連している、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

前記少なくとも1つのリスク遺伝的バリアントが、HLA、ラミニン、プレキシン、NLRファミリーの遺伝子座、またはそれらの組合せに存在する、請求項1に記載の方法。

【請求項4】

前記少なくとも1つのリスク遺伝的バリアントが、配列番号14および/または配列番号15である、請求項1に記載の方法。

【請求項5】

前記少なくとも1つのリスク血清学的マーカーが、抗Cbir1、ASCAおよび抗I2からなる群より選択される、請求項1に記載の方法。

【請求項6】

前記IBDが肛門周囲疾患と関連している、請求項1に記載の方法。

【請求項7】

少なくとも1つのリスク遺伝的バリアントの存在または非存在、ならびに／あるいは、少なくとも1つのリスク血清学的マーカーの存在または非存在を、炎症性腸疾患（IBD）を有する個体における低骨密度（LBD）の処置の必要性の指標とする方法であって、
（a）該個体から得た試料をアッセイして、少なくとも1つのリスク遺伝的バリアントの存在または非存在を決定すること；ならびに／あるいは

（b）該試料をアッセイして、少なくとも1つのリスク血清学的マーカーの存在または非存在を決定すること；

を含み、該少なくとも1つのリスク遺伝的バリアントの存在、または該少なくとも1つのリスク血清学的マーカーの存在、あるいは該少なくとも1つのリスク遺伝的バリアントの存在と該少なくとも1つのリスク血清学的マーカーの存在が、該個体におけるLBDが処置されるべきであることを示す、方法。

【請求項8】

前記少なくとも1つのリスク遺伝的バリアントが、配列番号14および／または配列番号15である、請求項7に記載の方法。

【請求項9】

前記少なくとも1つのリスク血清学的マーカーが、抗Cbir1、ASCAおよび抗I2からなる群より選択される、請求項7に記載の方法。